
二百文字未満小説十点セット

阿波野治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二百文字未満小説十点セット

【コード】

N7618M

【作者名】

阿波野治

【あらすじ】

文字数が二百以下の小説が十作品たまったので、まとめて公開してみようと思います

<朝の風景>

東北東の太陽。鳥の囀り。スクランブル交差点の人波。平時と変わらぬ朝。

駅構内。電車待ちの列。俯くスーツ姿。女子高生の笑声。平時と変わらぬ風景。

プラットホーム

歩廊の最前。制服姿の少女。褪せた黒髪。空虚な瞳。

構内アナウンス。響き出す走行音。現れる車両の影。

突然の跳躍。翻るミニスカート。宙に踊る躰。満面の笑顔。鋭い悲鳴。

掻き消す走行音。迸る紅。転がり込む球体。乱れる群衆。

構内アナウンス。鳥の囀り。平時と変わらぬ朝。

<トイレの女神様>

用を足そうとトイレに入ると、便器から女神様が顔を出して、歌を歌い始めた。トイレには女神様がいて、トイレを綺麗にすると女神様のように綺麗になれる、という内容だった。歌い終わった女神様曰く、「トイレの神様」という題らしい。

それを聞いた僕は、女神様の歌なのにタイトルが「トイレの神様」なのはおかしい、「トイレの女神様」にするべきなのでは、と指摘した。すると女神様は無言のまま便器の奥へと吸い込まれていった。

<浮気>

「ジョンのやつ、メアリーっていう可愛い彼女がいるくせに、浮気してやがるみたいだな」

「それは本当かい？」

「ああ、本当さ。今日も駅前でジョンとその浮気相手が腕を組んで歩いているのを見かけたし、この前なんて公園でキスしてるのを見ただぜ」

「それで、その浮気相手は誰なんだい？ 彼の幼馴染みのジェシカ？ パン屋の看板娘のアリス？ それともクラスで一番の美人のヘレン？」

「いいや、彼のルームメイトのマイケルさ」

<あるケータイ小説のダイジェスト>

あたしナオ

女

二十歳

大学生

この前の話なんだけど

夜道を一人で歩いていたら

知らない男にレイプされた

最悪

しかも検査したら

なんか妊娠してたみたい

まぢで最悪

でも

墮ろしたくはないっていうか
だって

こんな形で出来たとはいえ
命は命だし

そんな風に悩んでた時に

突然

元彼のユウヤが会いに来た

あの時にナオをレイプしたのは自分だ
そうユウヤは言った

ビックリした

でも……

授かった子がユウヤの子で嬉しい

結婚しよ

ユウヤ

大好きだよ

<是正の結果>

夜道を歩いていると、包丁を持った少女がいきなり襲いかかってきた。逃げる私を追いかけて、ぎこちなく握った刃を出鱈目に振り回してくる。これは決して許される行為ではない。間違いを指摘し

ないと気が済まない性格の私は、刃をかわしつつ叫んだ。

「お嬢さん。人を刺す時というのは、包丁は野菜を切る時のように握るのではなくて、逆手に持つものですよ」

翌日、私は惨殺死体となって通行人に発見された。

<名前>

僕の名前は前園宇宙。宇宙と書いて「ぎんが」と読む。

四月、新学期恒例のクラスメイトを前にしての自己紹介があった。僕の番が終わるや否や、担任の先生は眉をひそめて言った。

「あのね前園くん、銀河と宇宙は別物なのよ。銀河というのは恒星の集団のことを指すのであって……」

そんなことは知っているし、そう読むと決めたのは僕の両親だ。

僕に言われても困る。何だか全てが嫌になった。

<乱れ>

少年による殺人事件が発生した。ホームから人を突き落とすという、前代未聞の事件だった。

少年の父親は、新聞社のインタビューに対して、息子がどうしてこんなことをしたのか、心の心底から考えても分からない、と話した。

この親にしてこの子あり。少年が斯様な殺人を犯したのも分かる気がした。

<蒲公英を摘む人々>

父親に手を引かれた幼い少女は、草むらに生えた一本のタンポポを優しく摘み取り、ビニール袋に入れて大事そうに持ち帰った。一方、その近くの民家で庭の草むしりに精を出していた老爺は、綿毛を飛ばしてどこにでも生える煩わしい雑草だと呟いて、その花を鎌で刈り取ってバケツの中に放り捨てた。

<放課後のワンシーン>

橙色の陽光が差し込む教室に、豪快な放屁の音が響き渡った。恥じらいもクソもない、下品極まる音色だった。

僕はしていない。じゃあ誰が？

教室内を見回して、僕はハツとした。今この教室に居るのは、日直の仕事のため居残っている僕と、クラス一の美人の畑山さん、この二人だけだったからである。

<生き死に>

ぼーくらはみんな、いーきているう。だかーらいつか、死ぬん

だ。

そんな童謡の替え歌を歌っている小学生と道ですれ違った。私は足を止めて振り返った。見間違えたのか、その小学生には両足がないようだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7618m/>

二百文字未満小説十点セット

2010年10月21日20時13分発行